

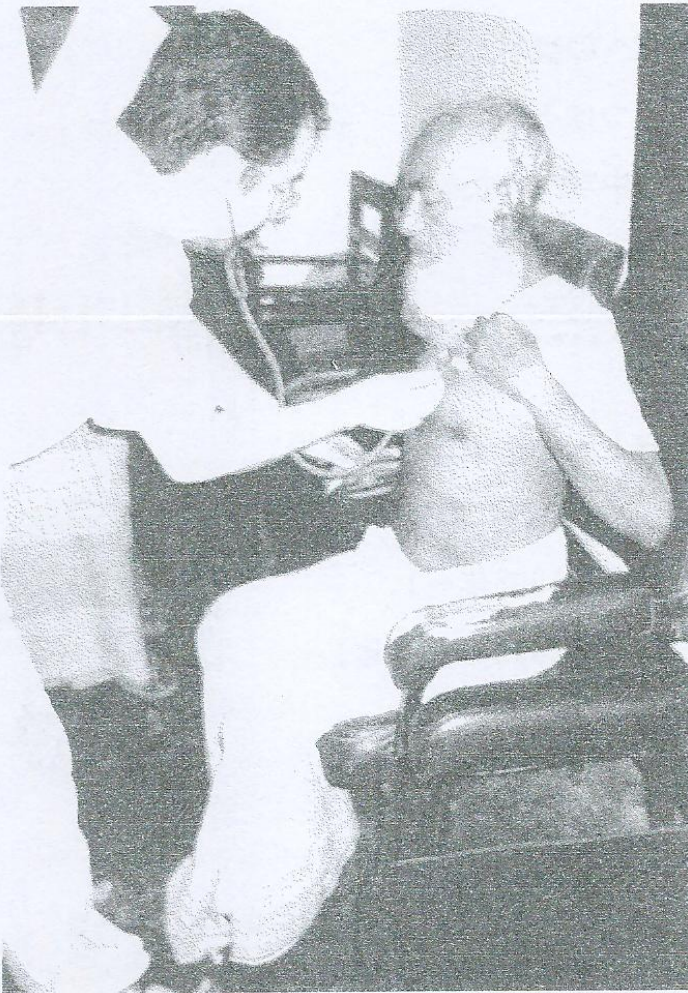
特定非営利活動法人

Bangladesh と手をつなぐ会

ミロン

No.108

「ミロン」は一つになる、手をつなぐと
いう意味のベンガル語です。



特定非営利活動法人
 Bangladesh と手をつなぐ会

福岡市早良区西新5-4-20

TEL&FAX:092-844-1369

ホームページ:<http://bangla.nngo.jp>

■ アジアの子どもたちの未来のために ■

バングラデシュと手をつなぐ会へあなたも参加しませんか

バングラデシュと手をつなぐ会では、バングラデシュ・カラムディで
現地の村人による開発のための委員会「シヨンダニ・シヨンスタ」と
協力して【教育】と【医療】の分野で次のような支援活動を行っています。

教育の分野では

将来を担う子どもたちの
教育の普及と向上のために

- ① 小学校の建設【1987～89年】とその後の運営支援
- ② 貧しくて学校へ行けない子ども達への奨学金制度
- ③ 職業訓練【ミシン】で技術を身につける
- ④ 教科書図書館【教科書が買えない中学生のために、
教科書の貸出】

医療の分野では

命と健康を守るために

- ① 母子保健センターの建設【1995年】とその後の運営支援
- ② 医療設備の充実
- ③ 緊急患者対応のために救急車の配備【1998年～】
- ④ 現地医師、看護婦のための訪日研修【1995年～97年】
- ⑤ 出産前女性への母親教室
- ⑥ 村の保健衛生向上のための巡回健診と衛生指導



国内活動では

夏の現地訪問、冬のスタディツアーを
毎年実施しています。

- ① 会報誌【ミロン】の発行
- ② 定例会の開催【参加型学習会など】
- ③ 現地訪問の報告会の開催、報告書作成と記録ビデオの製作
- ④ チャリティコンサートおよびバザー
- ⑤ 総会【毎年4月、予算・決算と活動方針やその決定など】

伝えることのむずかしさ！

10月2日(日)現地訪問の報告会があすみんで開かれました。残念ながら訪問団全員は参加できませんでしたが、ビデオ報告も含めて、それぞれに工夫した報告でした。特に初めて現地訪問に参加した大学生たちの新鮮な視点は、参加者にも共感を呼んだようでした。

11月7日(火)に、中学3年生に話す機会がありました。体育館に200名ほど集まって、しかも45分ということで、大変話しづらく感じました。事前にある程度国際協力などの下調べはしているのですが、バングラデシュ現地のことを、自分のこととして感じ、考えるということは大変むずかしいものです。毎年現地訪問を行って接する中から、お互いに人間としてのふれあい、つながり、時には葛藤などが生まれてくるものようです。しかし、それを人に伝えるとなると、あらためてむずかしいものだと思います。それでも、何人かの質問があり、感性豊かな中学生に伝えることの意味を感じました。

現地訪問やスタディツアーに参加することが一番ですが、すべての方がそういうわけにはいきません。ほとんどの方は、私たちを通してバングラデシュを、村人たちを知るのです。バザーやチャリティコンサート、料理教室などを通して、私たち自身が参加者とふれあい、私たちという人間を通して、何かを感じてもらえるような、そんな存在でありたいと思います。

(二ノ坂 保喜)



ミロン 108号目次	
あいさつと目次	1
現地からの報告	2
コラム：バングラデシュレポート	3
ムハマド・ユヌス氏 ノーベル平和賞受賞について	4
NGOカレッジ報告	5
インターン自己紹介・講演活動の記録	6
報告会報告・バザー報告	7
会計報告・これからの行事予定	8
料理教室のお誘い	9
募金のお願い	裏表紙

>>> 現地からの報告 <<<

カラムディ村の最近の状況をお伝えします。

モクレスール・ラフマン

■ 病院で妊婦さん死亡

10月16日深夜、隣の村から20代前半の2番目の出産を迎えようとする1人の妊婦さんが病院に運ばれてきました。当直の看護師は陣痛の状況を見て、出産するにはもう少し時間がかかると判断し、付き添った人たちにそう説明しました。今年の10月はイスラム教の断食の月で、断食をするために朝方ご飯を食べます。看護師はご飯を食べるに宿舎に戻り、病院に戻るのが少し遅くなってしまいました。その間、妊婦さんの状況が急変。看護師は自分たちでは対応できないと判断し、当直の医師を呼びました。しかし、医師が来て10分も経たないうちにこの妊婦さんは亡くなってしまいました。

全てのことがあまりにも速く進み、みんなは非常にショックを受け、動揺と悲しみを隠せませんでした。ションダニの病院ができて10年。このような悲しいことは未だかつてありませんでした。

この出来事の報告を受け、ションダニの幹部や運営委員たちは会議を開き、病院側の対応に何か問題はなかったか、また同じようなことの繰り返しがないようにどのような対策が必要か、真剣に話し合い、それを実行しようとしています。またみんなで故人の家を訪ね、冥福をお祈りしました。

二度とこのようなことがないように、心から願っています。

■ 牧草栽培プロジェクト

バングラデシュには山も森もありません。牛の餌といえば、米や麦のわら、雨季に生える草だけ。乾季になると、特にみどりの生餌は不足し、手に入れるのが困難です。

そんな中、カラムディ村にはションダニの関連だけでも100頭以上の牛が飼育されており、その数は年々増えていく状況です。これから先、年間を通して牛のえさを確保する対策をとらなければ、牛の飼育にも影響が出てくるでしょう。

牛を配布するだけでなく、その餌の確保もまた、早急に解決すべき問題のひとつ、そう考えて、ションダニは病院裏の空き地で、試験的に牧草栽培をすることを決めました。最初から大きなプロジェクトにすると、大きな資金も必要ですし、失敗の可能性もないとは言えません。土地の借り入れ賃や人件費がかからないことはもちろん、牛の飼育者たちがこの牧草を購入する意欲があるかどうかなどを見極める必要もあるでしょう。しかし、この試験がうまくいけば（牧草が安くて簡単に栽培され、それを食べることによってミルクの量も多くなり、肉牛も早く大きくなる）、牧草地を公開し、一般住民にも牧草栽培に参加するように呼びかけていく方針です。

>>> コラム・バングラデシュレポート <<<

今回は少し視点を変えて、バングラデシュの2つのことについてお伝えします。

モクレスール・ラフマン

■ バングラデシュの政治状況

すでに多くの方はテレビや新聞などの報道でご存知でしょうが、最近バングラデシュの政治状況は不安定です。その背景には何があるのか、またこれからどういう方向へ向かっているかについて書いてみます。

世界のおそらくどこの国にもない選挙制度がバングラデシュにあります。それは「暫定政権」です。90年代、与・野党間の対立が激しくなり、互いの不信感が深まったことがありました。その解決策として、与党はいったん政権の座から降り、暫定政権に権限を渡すことに合意しました。与党が政権を握るならば、マスコミや国家機関を利用し、選挙を有利に進める可能性を否定できないからです。一般的に72歳以下の前裁判官が暫定政権の首相となり、ほか10名の有識者を選抜し、それぞれがいろんな省を担当します。

今年10月27日にBNP（現与党）は5年間の任期を終え、翌日の朝、前裁判官に政権を渡すつもりでしたが、前裁判官が与党の支持者だったため、野党から反発があり、渡すことが出来ませんでした。与・野党の駆け引きの結果、予定通りに政権交代が出来ず、前裁判官も政権の引き受けを拒否。その結果一日遅れで、大統領自身が首相の責務を引き受けることとなりました。これから3ヶ月以内に総選挙が行われ、国会議員の過半数獲得した党に政権を渡されるまで、この暫定政権が続きます。

予定としては、来年1月末には新しい政権が誕生します。それを機に国が安定することを心から望んでいます。

■ ラマダン（断食）

イスラム世界において断食は義務です。これはイスラムの5行の一つであり、大人で体力的に問題がなければ男女誰もが断食しなければなりません。断食とは、自分との戦いを意味します。自分のあらゆる欲望を抑え、どんな金持ちでも貧しい人でも同じ体験をするのです。

日の出前（朝4時頃）にご飯を食べ、日没にまた食べる。このような日々は29日間続きます。これは非常に厳しいように聞こえますが、慣れてくればそうでもありません。この間、男女関係はもちろん（昼間のみ）、飲食もできません。しかし逆に断食していけない人たちもいます。例えば妊婦さん、生理中の女性、母乳を与えるお母さん、体力的に無理のある子どもや大人、病人、けが人、旅行者、戦士などです。

断食明けの前後一週間はすべての公務が中断。日本の正月行事に似ていて、実家へ戻るラッシュが続きます。今年は10月24日が断食明けの日でした。その日の朝はみんな、イードガー（お祈りする場所）に集まり、共に祈り、共に食事をし、交流を深めます。福岡でも毎年同じ事が、国境や人種を越えて行われています。

バングラデシュの経済学者

「ムハマド・ユヌス氏」 ノーベル平和賞受賞!!

バングラデシュの経済学者であり、グラミン銀行の総裁でもあるムハマド・ユヌス氏が、2006年のノーベル平和賞を受賞されました！

ユヌス氏と手をつなぐ会との関係

ユヌス氏は2001年「福岡アジア文化賞・大賞」を受賞している。その折、通訳としてラフマンさんが、パネラーとして宇治が係わった。シンポジウムの主催者である福岡市からの依頼で、会は広報の一端を引き受けた。当日は遠方からの NGO 関係者や一般の人々の参加者も多く、主催者側から大いに感謝された。懇親会では代表を始め数人が参加して、食事を共にしながら懇談した。温和な学者という印象だったが、ゆるぎない信念が貧困から多くの人々を自立に導いている。

ユヌス氏の功績から学ぶこと

1976年、洪水や飢饉が続き、貧困にあえいでいる村の女性に無担保小口融資を始めた。最初に貸した金額はわずか6ドル。女性は創意工夫を重ね、小口のビジネスで稼ぎ、期限には責任を持って返済した。ユヌス氏が始めたこのシステムが世界に広がり多くの貧困者を自立へと導いている。誰もが見向きもしなかった貧しい人々のところにユヌス氏自らが足を運んで得た独自のシステムに対する評価は高い。しかもユヌス氏が広めたのはシステムだけではない。貧しい人々の人権を守り、育て、信頼したことである。この姿勢は受け継がねばならない。現地 NGO と手をつなぐ会は、カラムディ村の人々の将来を担っている。まずは「人ありき」。活動の中で、モチベーションを高め、それぞれの立場で何をすべきか、何が出来るかを真剣に考え、今後の活動を、ステップアップしてゆきたい。そのため12月には現地 NGO に1年間滞在した矢野君を柱に、泊り込みの研修を計画している。（宇治）



◆◆◆ 2006年度第8期NGOカレッジ ◆◆◆

1. 「国際協力ってなんだろう?～アジアの現場、さまざまなカタチ～」
2. 「育てる国際協力 教育・食・子ども ～地域で活動する国際協力～」

去る10月8日、21日。2回に渡り、毎年恒例となった「NGOカレッジ」(主催NGO福岡ネットワーク)が開催されました。

第1回目では、外務省、JICA、NGO(セカンドハンド、JVC)という様々な立場・視点から、それぞれにとっての「国際協力」というものを読み解いていただきました。それによって、国際協力というものを厚みをもって感じ、「国際協力ってなんだろう」という国際協力の本質や、「私はカタチに関わっていきたいんだろう」ということを改めて考えさせられました。

第2回目では、第1回目が「国際協力」と言った場合に思い浮かべられやすい「外で活動する国際協力」について主に語っていただいたのに対し、「地元でやる国際協力」という我々の足元に視点を移したお話をしていただきました。私たちの身近にある食や教育、子どもの問題についてお話を伺っていくうちに、自分自身の周りをスタート地点とする国際協力の姿が描き出されていくようでした。特に後半のパネルディスカッションでは、参加者全員が椅子を持ち寄り、円形になったことで「各参加者がパネリスト」というような、より自分の身に引き付けた語り合いの場を作ることができました。

毎年多少の変容はありつつも、このように広い市民の方々に「国際協力って?」「私にはなにができるんだろう?」と考えていただけるNGOカレッジという場を作り続けていけること、そのような場に多くの方々にお越しいただけたことなどをとても嬉しく感じたNGOカレッジ月間でした。(溯上)

【地球市民どんたく2006 開催中止のお詫び】

9月14～18日開催の地球市民どんたく2006。バングラデシュと手をつなぐ会では9月18日(月・祝)にブースを出展しますよ～!と声高らかにお知らせしていたのですが、皆さん、ごめんなさい!17～18日は例の大型台風によって開催中止になってしまったんです。足をお運びくださった方、予定を立ててくださった方、ごめんなさい。来年にご期待ください!!

☆☆☆インターンをしています☆☆☆ ～上野山美沙さんより自己紹介～

10月からバングラデシュと手をつなぐ会のインターンをさせていただいています、上野山美沙と申します。事務局会議や運営委員会、今度のバザーにも参加し、NGOの“いろは”…は少なすぎるかな？！”…にほへとちりぬ”を勉強させていただいております。

バングラデシュと手をつなぐ会の会議は、ゆるさと厳しさ・激しさが混ざり合ったものだと感じています。まず、“ゆるさ”というのは、皆さんの忙しさからくるものだと思っています。バングラデシュと手をつなぐ会は専従職員を持たずに運営している為、運営メンバーの普段の生活は皆バラバラで忙しく、この会の為だけに時間を費やすことはできない状況にあります。私はそこがNGOの素晴らしい部分であると思っています、「兼業」のように活動できるのが「非政府」であることの一番の良さであると感じています。今からでもどんな職業の人でも国際協力に参加できるってことやん？と思うからです。日本でこんなカタチの兼業が当たり前になって、もっと広がればいいのになあと思います。次に“厳しさ・激しさ”について。この会の会議は本当に白熱しています！現地状況の報告をし、そこでのシステムの改善や多種多様な問題を真剣に考えて、意見をズバズバ言い合っ、ああでもない、こうでもない、いや、それはこうでしょう！…なんて言っていたら、19時集合の会議なのに帰るのは23時頃…！確かに会議に出るのは疲れるし、現地での協力活動のシステムなどについては聞いていて分からない部分もたくさんありますが、本当にNGOの実体を学んでいる！と思えますし、私はインターンに来て良かったなあと思っています。

これから、とりあえずは3月頃までお世話になりますが、どうぞよろしくお願い致します。

講演アレコレ

(1) 大牟田中央公民館

9/15 10:00から2時間、大牟田中央公民館主催の講演会に行ってきた。老人クラブの約100名の会員が本会場に出席、またテレビ中継で20数名の会員が参加。テーマは「世界の中の日本」。少し難しそうなテーマだったが、できるだけ簡単に説明しようと試みた。世界に対して日本はどのような活動をしているか、また世界の各国、とりわけアジアは日本に対してどのような期待を持っているか、資料や映像を使って説明した。最後に、国家間の貢献のほかに民間レベルでどのような協力活動ができるか、手をつなぐ会の活動も少し取り入れ、話しをした。(ラフマン)

(2) 箱崎中学校での講演

9/19、箱崎中学校の約190名の3年生の総合学習時間にバングラデシュの教育事情について話をした。30分の時間で、バングラデシュや手をつなぐ会の話も取り入れた。またバングラの文化を体験してもらおうと、湧上さんに協力してもらい、2人の生徒にサリーを着てもらった。みんな喜んだと思う。この学年の半数以上の生徒は我が娘の小学校の同級生だったので、私のことをある程度知っていた。

同じ会場にネパールから帰ってきたばかりの青年海外協力隊員の方も参加し、ネパール人の生活や文化や子ども達のことを映像で上手に説明していた。(ラフマン)

＝現地訪問報告会＝

2006年夏の現地訪問の報告会を、10月1日福岡市中央区大名の青年センター5F、福岡NGOボランティアセンター〈あすみん〉で、午後2時より開催。

椅子が足りなくなるほどの盛況の中、今回初参加の宮崎智子さんと宮崎晃輔さんから、現地で撮った写真を使って、カラムディ村での交流の様子や、ダッカで出会った厳しい状況の中の子どもの様子などの報告を行いました。その後、ラフマンさん、ニノ坂代表が、現地の状況とこれからの課題、現地スタッフの頑張っている様子、今年の訪問団の様子などの報告がありました。

上野大輔さん、草場孝仁さん、藺田共喜さんは、スケジュールの都合で報告者として、当日参加することはできませんでしたが、上野大輔さんは事前に撮影したビデオで、現地の子どもたちとの交流の様子や、教育について報告を行い、草場孝仁さんと藺田共信さんは、会場に見えていたご家族から、帰国してからの近況を話していただきました。(中島)

～宮崎晃輔さんから感想を寄せていただきましたので、ご紹介します。～

僕は、今回の報告会では6枚の写真を見せて、それについて話しました。一応原稿は用意していましたが、多くの方がバングラデシュの現状やNGO活動に興味を持ってくれるような写真や話を選びました。来場者は年配の方が多かったのですが、私の話を聞きながら興味深そうに聞いてくれました。第一部では、バングラデシュの衣食住についても話しました。他にも、代表のお話やスライドショーなどに、みなさん見入られていました。今回の報告会で、一人でも多くの方がこの活動に興味を持ってくれ、是非参加してほしいと思います。

＝2006秋のチャリティバザーの報告＝

青い秋空に染み渡るオカリナの音色♪お天気にも恵まれて、楽しいバザーになりました。いつものように、おいしいパンケーキやマドレーヌ、元気なお野菜やかわいのお花たち、お昼には欠かせない、かしわご飯。手作り品や、提供品の販売など、にぎやかなバザーになりました。いつもの、あま～いぜんざいがなくて残念でしたが、次回のバザーで、又いただけるといいですね。

2006年10月29日の秋のチャリティバザーは、皆様のご協力で、¥166,600の募金収入となりました。

品物を提供してくださった方、前日の値付け作業に、参加していただいた方々、ありがとうございました。

バングラデシュ・カラムディ村の子供たちの笑顔に、役立つように、活用させていただきます。お疲れ様でした！！(中島)

■会計からの報告（敬称略）

※ 新入会員の紹介

濱田民子 鐘ヶ江やす子 末岡智子 内田勝美 牛島直美

※ 募 金 者

長崎MCHを支援する会 富田圭子 足立京子 吉川徹 小山田浩定 今給黎靖子

篠崎モミエ 水山マサコ ニノ坂クリニック窓口募金箱

池本タエ子 ひかり作業所分場工房陶友 尾下 寺岡 山下 谷川ミツヨ

※ 旅費のカンパ

山下久代 西田和子 篠崎モミエ

（10月31日現在）

これからの行事予定

皆様のご参加をお待ちしています。

月 日	時 間	内 容	場 所
16日 or 17日	19:00～ 21:00	スタディツアー 参加者研修	西新事務所
23日（祝木）	17:00～	運営委員会	西新事務所
12月2日（土）～ 3日（日）	16:00～ 12:00	理事研修	木香庵
12月7日（木）	19:00～	事務局会議	西新事務所
21日（木）	19:00～	運営委員会	西新事務所
23日（土）		スタディツアー出 発	福岡国際空港
30日（土）		スタディツアー 帰着	福岡国際空港
新年1月11日	19:00～	事務局会議	西新事務所
25日（木）	19:00～	運営委員会	西新事務所
28日（日）	10:00～	バン格拉料理教室	婦人会館 8F 調理室 （あいれふ）

変更になる場合もあります。事前にご確認のうえご参加ください。

☆会報「ミロン」の印刷・製本ボランティア、発送ボランティアを募集しています。

次回の発行は2月の予定です。ご協力いただける方は事務局（TEL092-844-1369）

までご連絡下さい。

milon

特定非営利活動法人

バン格拉テシュと手をつなぐ会

バン格拉カレー&バン格拉料理 de 冬を乗り越えろの会 ★

〈バン格拉テシュ料理教室〉

今年もやってまいりました『バン格拉カレーの日』！

本場バン格拉カレーといったら辛くて食べられないのかなあ・・・

いいえ！そんなことはありません！！

例年、老若男女さまざまな方々がいらっしゃいます。

お友達を誘って、さあ！皆でカレーパーティーをしましょう！

★ 日時：2007年1月28日（日）

10：00～ 受付開始

10：30～ 調理開始

12：30～ 試食会

★ 会場：あいれふ8F 調理室

福岡市中央区舞鶴2丁目5-1

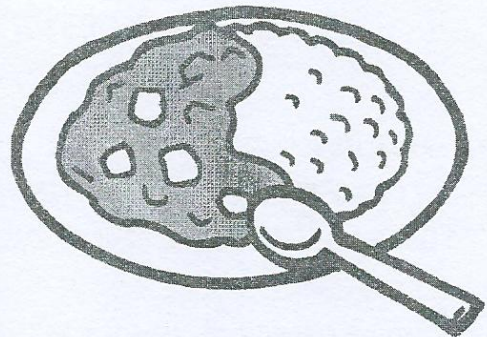
tel. 092-712-2662

★ 会費：1000円

★ 要予約となっております。（先着順）

予約先：事務局 tel/fax092-844-1369 or へのさかクリニック tel. 092-872-1136

E-mail bwz12729@nifty.com

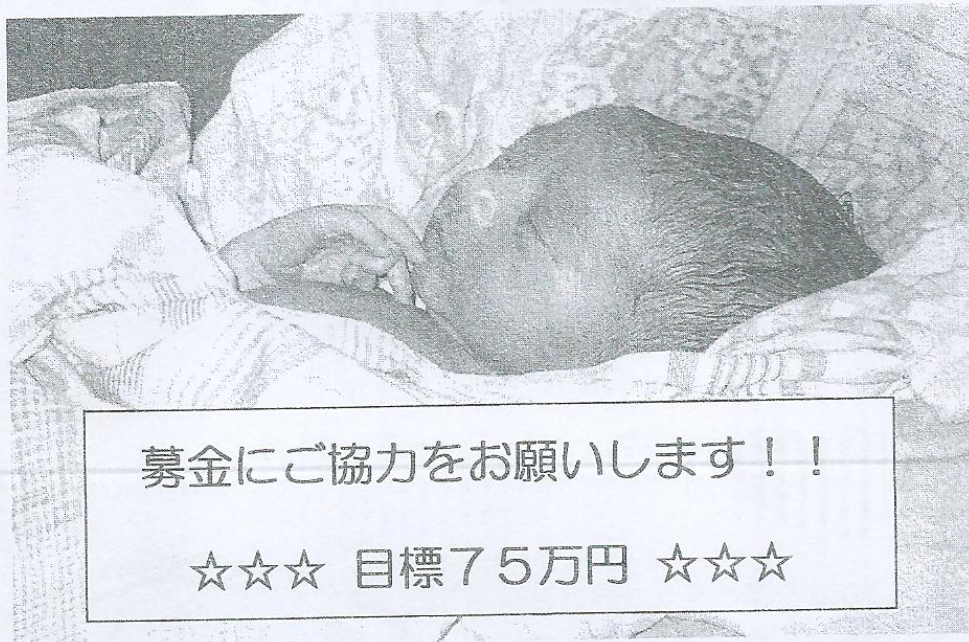


ぜひバン格拉テシュの家庭の味をご賞味ください。

皆様のご参加、お待ちしております。

肉牛プログラムで妊婦に支援を！キャンペーン

子牛の奨学金が始まって5年。たくさんのお子どもたちが学校に通えるようになりました。村の各地で肉牛育成のプログラムも始まり、経済的自立への動きとなっています。シヨンダニでは、これを妊婦の家庭にまで広げようと、妊婦に肉牛の貸し出しを計画しています。



募金にご協力をお願いします！！

☆☆☆ 目標75万円 ☆☆☆

妊娠した女性の家庭に肉牛を貸し出します。妊婦の家庭では、半年から9ヶ月かけて肉牛を育て、それを売った利益で、妊娠中の検診と出産の費用を支払います。10%をシヨンダニに返し、残りはその家庭の利益として残り、子どものミルク代などに当てます。

このような仕組みで、安心して妊娠中の検査を受け、母子保健センターで安全なお産をするよう動機付けようという企画です。肉牛を育てることでその家庭も豊かになれますし、シヨンダニも村人との信頼関係と少しの利益を得ることができます。

まず最初に5人の妊婦に試験的な貸し出しを行う予定です。肉牛の購入、えさ代、病気に対する準備金、世話人の手当てなどの費用として、75万円の募金を呼びかけます。皆さまのご協力をよろしくお願いします。

振込先は⇒ 郵便振替口座 01720-2-10442

加入者名 バングラデシュと手をつなぐ会